

**2012年5月石原社長定例記者会見概要**

5月30日午後3時から、石原社長による定例記者会見が、放送センター20階役員大会議室で開かれました。概要は以下のとおりです。

<編成関連>

特にゴールデンとプライムの視聴率が厳しい数字となっており、状況を早く打開しなければならないと考えている。全日帯の情報系の帯番組は引き続き好調を維持しているし、日曜劇場『ATARU』は平均で15%を超えるなど、ドラマも比較的堅調だ。問題はバラエティ番組で、早急に抜本的な企画の見直しを図るよう現場に指示している。

スポーツでは、現在、「ロンドン五輪バレーボール世界最終予選」をフジテレビと共同で放送しているが、いずれも高い視聴率を記録している。今後も、「サッカー欧州選手権ユーロ2012」「ロンドンオリンピック」と、大型のスポーツイベントが続く。国民の関心も高まっているのではないかと思う。

また、7月のドラマだが、日曜劇場は、向井理さんの『サマーレスキュー～天空の診療所～』、木曜日は Kis-My-Ft2 の藤ヶ谷太輔さんら、注目の若手キャストを配した『ビギナーズ!』がスタートするので、視聴率のアップを期待している。

<営業関連>

上期のタイムセールスは、ネットタイムのレギュラーは2011年度下期並みの売上を確保している。4月はローカルタイムが前年実績に届いていないが、ネットとローカルを合わせたタイム売上では前年を超える売上を確保し、マスターズも例年通りの売り上げを確保した。現在放送中の「バレーボール最終予選」、6-7月の「サッカーEURO2012」そして7-8月の「ロンドンオリンピック」と、スポーツ単発セールスが続くので売上を期待している。

スポットセールスは、前年が震災の影響で大きく落ち込んだので、今年度4月はその反動で前年を大きく上回った。4月は前々年と比べても1割程度増収になっていて、5月も同じような数字で推移している。6月以降は、昨年並みを見込んでいるが、ヨーロッパやアメリカの経済に不安もあるので、動向を注意深く見守りながら、必要に応じて機動的に対応していきたいと考えている。

<夏サカス>

赤坂サカスでは、今年も「笑顔の扉」と銘打って、7月21日(土)から9月2日(日)まで、恒例の夏のイベントを行う。具体的な内容に関しては現在作業中だが、天気中継をはじめ

『朝ズバッ！』『ひるおび！』などの番組を会場から放送したり、TBS 放送センターの内部を 3D で体験できるアトラクションや、春サカスで好評だった子どもアナウンス教室など、テレビの世界を身近に感じていただくイベントを企画している。また、関東エリアの具体的な節電目標などは示されていないが、この夏も電力事情には十分配慮する必要があると考えているので、省電力化をはかる予定。

<事業関連>

映画「SPEC～天～」が 5 月 28 日(月)までの公開 52 日間で、動員 181 万人、興収約 23 億 2,700 万円の大ヒットとなっている。これは 2010 年秋に放送したドラマシリーズの映画化だが、映画の直前にテレビ番組を放送したり、ブルーレイや DVD ソフト、ゲーム、その他関連商品などマルチ展開を行ったりしたことが功を奏したと思っている。今後もこうしたソフトのマルチ展開に積極的に取り組んでいきたい。

また、3 月 10 日から開催している「インカ帝国展ーマチュピチュ『発見』100 年」はおかげさまで大変好評だ。5 月 23 日には 30 万人記念セレモニーを行ったが、27 日(日)までの動員数は 32 万人を超えている。東京では 6 月 24 日まで開催し、その後、仙台から沖縄までの 8 都市を 2 年近くかけて巡回する。

既に世界 153 の国と地域にフォーマット販売している「SASUKE」だが、アメリカでは今年、3 都市で予選、ラスベガスで決勝を行った。この模様は最新シリーズとして、全米ケーブル放送局 G4 で 5 月 20 日(日)、また、地上波 NBC では翌 21 日(月)より、それぞれ放送が始まった。複数の全米ネットワークで、同一番組が同時期にゴールデン帯で放送されるのは史上初めてだそうだが、視聴率的にも、両局のこれまでの実績を上回る好調な滑り出しを記録している。またマレーシアでは、昨年引き続き、政府主催の催しのメイン・イベントの一つとして、5 月 23 日から 5 日間『SASUKE マレーシア』を行ったし、シンガポールでは、8 月 9 日から来年 1 月まで、現地版「SASUKE シンガポール」の放送が決まっており、今後とも積極的に海外展開していきたいと思っている。

<ラジオ関連> TBS R&C 入江社長

2011 年度は減収減益という結果になった。とはいえ営業の健闘で、他局分を除いたタイム・スポット収入では前年を上回る成果をあげ、営業利益も当初の予測を上回っており、厳しい環境の中で一定の評価はできる成果だと認識している。2012 年度は収入・利益ともに 11 年度並みを見込んでいるが、かなり厳しい 1 年が予想されるので、チャレンジの姿勢も大切に全社一丸となって取り組んでいきたい。

首都圏個人聴取率 4 月調査の結果、TBS ラジオは 2001 年 8 月以来 65 期連続首位となった。しかし数字は落ちて、SIU も下がっており、リスナーから厳しい評価が下されたと受け止めている。番組内容の吟味に加え、受信環境悪化への対策、radiko の PR などに危機感を持って臨む。土曜午後『久米宏 ラジオなんですけど』の、第 49 回ギャラクシー賞ラジオ部門での入賞が確定し、6 月 4 日に大賞、優秀賞の発表がある。評価をいただいたことに感謝し、最終結果を楽しみにしている。

以上